

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 9 月 15 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01307

研究課題名(和文) 通信使と訳官使の統合的研究 17-19世紀東アジア国際秩序と構造の視座転換

研究課題名(英文) An Integrated Study of The Korean Envoy to Japan and Tsushima: A Shift in Perspective of the International Order and Structure of East Asia in the 17th-19th Centuries

研究代表者

池内 敏 (IKEUCHI, Satoshi)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：90240861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円

研究成果の概要(和文)：対馬藩政史料を中心に近世東アジア国際秩序を再検討しうる史実の選択と再構成に努めた。文献史料の精査を基盤に据えつつも、考古学や美術史学的手法に熟練したメンバーを追加招することで研究の深化をはかった。科研メンバーによる研究会を組織し、科研独自の学術誌を研究期間中に7冊刊行し、本科研による研究活動の具体的成果を速やかに発信した。17-19世紀東アジア国際秩序を再構成して新たな枠組み提示へ向けて一歩を進めることとなった。なお、本科研では東アジアをまたいで若手研究者の研究交流と発表の機会を作るよう努めてきたが、コロナ感染症拡大状況の中では必ずしもこの活動は十分には行いきれなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

もっぱら朝鮮通信使を分析することを通じて構想されてきた近世東アジア国際秩序の構造的理解に対して、本研究では従来は精細な研究がほとんどなされてこなかった訳官使に注目して朝鮮通信使と訳官使を対比的に検討を進めながら近世東アジア国際秩序の再構成を展望できるような研究の蓄積がなされたことと思う。さらに、日本・朝鮮関係の背後にある中国(明・清)の存在を従来以上に意識的に追究すること、文献史学で明らかにされた史実を考古学的・美術史的な手法によって明らかにされた史実とつきあわせながら、歴史空間の重層的なありさまを再現すべきこと、北方史への視座の展開が重要であることを新たな研究展望として得ることとなった。

研究成果の概要(英文)：We have made efforts to select and reconstruct historical facts that could reexamine the international order in East Asia in the early modern period, focusing on the historical records of the Tsushima domain. While based on a close examination of the archives, the research was deepened by inviting additional members skilled in archaeological and art historical methods.

The project took a step toward reconstructing the international order in East Asia during the 17th-19th centuries and presenting a new framework.

Although we have made efforts to create opportunities for young researchers to exchange and present their research across East Asia, these activities were not always sufficient in the midst of the spread of coronavirus infection.

研究分野：近世日朝関係史

キーワード：朝鮮通信使 訳官使 近世 東アジア 国際秩序 対馬藩

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

17 - 19 世紀東アジア国際秩序について、先行研究は、究極的には朝鮮通信使を中心にして、それと対比するかっこうで琉球使節をも併せながら「東アジア国際秩序」の構造を論じてきた。本研究は、朝鮮通信使の制度的再検討を、類似する朝鮮外交使節たる訳官使との比較検討を通じて進めていきたい。訳官使については、その存在は知られていたものの、それが朝鮮王朝から対馬主あてに派遣された使節であり、いわば三朝鮮通信使として扱われてきた。そのため訳官使そのものについて精細な実証研究はこれまで十分に展開してこなかった。朝鮮通信使と訳官使の比較検討は、朝鮮通信使と琉球使節の比較検討に比べて、より類似性の高い外交使節の比較検討であり、しかも派遣名目や派遣時期は重ならないし、使節団の長は訳官(日本語通訳)であるがゆえに、日朝間の意思疎通の面での検討としても興味深いところである。

したがって、いわば未開拓の領域であった訳官使研究を、対馬およびソウルほかに所在する豊富な対馬藩政資料をきちんと読みこなすことを通じて、精細な実証研究を積み重ねて行き、その先に東アジア国際秩序の再構成を展望できればと構想するものである。また、若手研究者との交流、若手研究者とともに研究活動を進めることによって研究活動の継承にも意を用いることにより、こうした東アジアの視野に立った歴史研究を次世代にも受け継いでいけるよう工夫できたらと考えた。

2. 研究の目的

17 - 19 世紀東アジア国際秩序の新たな枠組み提示へ向けて、具体的な諸史実の再検討を行う。本研究では、十分に活用されてきたとはいえない対馬藩政資料など関連する史料群きちんと読み込むとともに、関連する図像・画像に含まれる文字情報をも併せて精査し、それら地道な作業を通じて歴史像の再構築を目指すものである。その際に、日本・韓国・中国の若手研究者との研究交流会・シンポジウムをともしするなかで、若手研究者に研究交流と発表の機会を作り、次世代の研究発展に資するよう努めたい。

3. 研究の方法

研究代表者・分担者がそれぞれに本研究課題に即した内容にかかわる個別実証研究を進めておきながら、研究会・研究交流会およびシンポジウムの中で科研メンバー相互でそれら研究成果の点検を行って具体的な研究成果へとつなげるよう努める。メンバーそれぞれの進めておく個別実証研究は、東アジア国際秩序の構造的な理解を再検討するために必要な素材(朝鮮通信使・訳官使や日朝交流史に即した諸課題)について、17 世紀、18 世紀および 18 世紀それぞれの時期的展開を念頭に置きながら実施する。

本研究課題に即した科研メンバーによる研究会を組織して日常的な研究交流が可能となるように工夫をする(「訳官使・通信使とその周辺」研究会)。そして、当該研究会での口頭発表と討論を前提として論考の掲載を行うことを原則として、本科研独自の学術誌(科研の研究成果報告書『訳官使・通信使とその周辺』)を随時刊行することとし、現在進行中の研究成果をなるべく速やかに社会に還元する努力を行う。またそれら本科研の研究活動を広報するための HP を作成し、研究活動を常に開かれたものとする。

4. 研究成果

(1) 複数の科研メンバーによる合同史料調査

英国での朝鮮通信使関連史料(とくに絵画資料)調査(2019 年 8 月)

乍浦・寧波での現地踏査(2019 年 9 月)

建仁寺両足院文書のうち以酌庵関連史料の調査(花園大学、2021 年 9 月)

道南十二館の現地踏査(2022 年 8 月、9 月)

蘭島文化財団所蔵の朝鮮通信使関連史料の調査(2023 年 3 月)

(2) 国際シンポジウム

復旦大学(中国・上海)での国際シンポジウム(2019 年 9 月)

名古屋大学(2020 年 1 月)

(3) 研究会での研究発表

「訳官使・通信使とその周辺」研究会 本科研の研究期間内に 18 回開催。

同・サブグループ 同上 15 回開催。

* 研究会・同サブグループの報告題・参加者数・開催場所・開催方式などの詳細は『訳官使・通信使とその周辺』1-7号の彙報欄をご参照ください。
東アジア日本研究者協議会第5回大会へパネル参加（2020年11月）

(4) 学術誌の刊行と無償頒布

『訳官使・通信使とその周辺』1、2020年3月

同 2、2020年9月

同 3、2021年1月

同 4、2021年7月

同 5、2022年3月

同 6、2022年10月

同 7、2023年3月

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池内敏	4. 巻 6
2. 論文標題 柳川一件における国書改竄問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 1 - 22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 6
2. 論文標題 訳官使接遇体制の整備と「訳官記録」群について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 23 - 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 6
2. 論文標題 雨森芳洲『交隣提醒』写本構成の比較検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 43 - 57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川祐貴	4. 巻 7
2. 論文標題 対馬藩主図書考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 1 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 7
2. 論文標題 対馬藩「隣交之御書付」の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 67 - 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 158・159
2. 論文標題 岡本隆司『交隣と東アジア 近世から近代へ』に寄せて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史の理論と教育	6. 最初と最後の頁 49 - 60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 4
2. 論文標題 宝永三年の「書契問題」の検討 「御養君建儲」・「公私」をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 1 - 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 程永超	4. 巻 4
2. 論文標題 近世初期の対馬藩と大陸情報収集	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 23 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 5
2. 論文標題 対馬における「潜商」とその取締 延宝～宝永期を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 1 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山まび	4. 巻 5
2. 論文標題 「判事茶碗」に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 35 - 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 5
2. 論文標題 柳川調興の晩年から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 57 - 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 5
2. 論文標題 「大文字の約条・小文字の書物」考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 93 - 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 2
2. 論文標題 寛永十三年通信使と柳川一件	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 31 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 2
2. 論文標題 調興・玄方・七右衛門	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 51 - 70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 程永超	4. 巻 2
2. 論文標題 文化度信使の筆談研究の一断面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 71 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 程永超	4. 巻 3
2. 論文標題 十七世紀初頭釜山開市許可をめぐる日朝中三国関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 33 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 3
2. 論文標題 訳官使記録書付一覧から考える対馬朝鮮関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 53 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 1
2. 論文標題 「柳川一件」の歴史的位置	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 51 - 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内敏	4. 巻 1
2. 論文標題 寛永十二年の訳官使	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 67 - 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田徹	4. 巻 1
2. 論文標題 中高歴史教科書における「朝鮮通信使」表記と「信=よしみ」説について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 訳官使・通信使とその周辺	6. 最初と最後の頁 3 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 書評：岡本隆司編『交隣と東アジア』
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会・名古屋歴史科学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 柳川一件における国書改竄問題
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 雨森芳洲『交隣提醒』写本構成の比較検討
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 訳官使接遇体制の整備と「訳官記録」群について
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 朝鮮通信使と歴聖大儒像
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古川祐貴
2. 発表標題 対馬藩主図書・児名図書考
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 片山まび
2. 発表標題 考古学からみた草梁倭館
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 十七世紀の訳官使と対馬藩の中国情報収集活動
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 酒井雅代
2. 発表標題 天明・寛政期の対馬藩と幕府
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 柳川調興の晩年から
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 書評：木村拓『朝鮮王朝の侯国的立場と外交』
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 17世紀対馬における「荷改」規程について
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山まび
2. 発表標題 「判事茶碗」再考 モノからみた実態をめぐって
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 1630年代の対馬・朝鮮・明朝中国
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 「柳川一件」像の再構成 史実とエピソードの距離
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会・朝鮮史研究会関東部会5月例会・韓日関係史学会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 調興・玄方・七右衛門
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 訳官記録書付一覧から考える対馬朝鮮関係
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 十七世紀初頭日朝貿易の回復と明朝中国
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 対馬藩の中国情報収集活動
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 朝鮮通信使行列図を読む
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会・名古屋歴史科学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 調興・玄方・七右衛門（補遺）
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 「御養君建儲」をめぐる書契問題の検討
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 「柳川一件」像の解体
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 柳川一件の歴史像とエピソード
3. 学会等名 日本史研究会近世史部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 寛永十二年の訳官使
3. 学会等名 東アジア文化間の対話 朝鮮通信使学術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 「柳川一件」の歴史的位置
3. 学会等名 韓日関係史学会12月例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池内敏
2. 発表標題 柳川一件の歴史像とエピソード
3. 学会等名 九州史学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 中高歴史教科書における「朝鮮通信使」表記と「信=よしみ」説について
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石田徹
2. 発表標題 朝鮮「通信」使の「信」について
3. 学会等名 東アジア文化間の対話 朝鮮通信使学術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17 世紀中葉における書契違式をめぐる日朝交渉 -日本硫黄の朝鮮輸出を中心に-
3. 学会等名 東アジア文化間の対話 朝鮮通信使学術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 17世紀初頭の日朝関係と中国 日朝貿易の回復と朝鮮の倭情辯証を中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム「歴史的転換期における東アジア国際関係の新解釈」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 程永超
2. 発表標題 対馬藩宗家文書における「唐兵乱」情報 丁卯の役、丙子の役と清の入関を中心に
3. 学会等名 「訳官使・通信使とその周辺」研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

通信使と訳官使の統合的研究 17 - 19世紀東アジア国際秩序と構造の視座転換
<https://sites.google.com/view/yakkanshi/home>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片山 まび (KATAYAMA Mabi) (80393312)	東京藝術大学・美術学部・教授 (12606)	
研究分担者	程 永超 (CHEN Yongchao) (80823103)	東北大学・東北アジア研究センター・准教授 (11301)	
研究分担者	石田 徹 (ISHIDA Toru) (90386524)	島根県立大学・国際関係学部・教授 (25201)	
研究分担者	酒井 雅代 (SAKAI Masayo) (30827655)	大妻女子大学・比較文化学部・講師 (32604)	
研究分担者	古川 祐貴 (FURUKAWA Yuki) (00784860)	弘前大学・人文社会科学部・助教 (11101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 東アジア文化間の対話 朝鮮通信使学術シンポジウム	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 歴史的転換期における東アジア国際関係の新解釈	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	復旦大学文史研究院	山東大学		
英国	オクスフォード大学			
韓国	忠南大学	高麗大学		